

#### 質問（20条関連）

計算例において、基礎スラブの短期許容せん断力応力度＝コンクリートの短期許容せん断応力度（1.05）として検討されていますが、 $\alpha$  を考慮するのであれば、P155（15.3）式のように2/3倍する必要はありませんか。

（匿名希望）

#### 回答

15条では、長期許容せん断力は（15.2）式、短期許容せん断力は（15.3）式で算定することとしています。20条は15条と異なり、長期・短期とも同じ（20.5）式で算定することとしています。

（20.5）式は、 $p_w \geq 0.2\%$  を適用条件としつつせん断補強筋の負担分を無視していますが、解説図20.18に示すように、せん断補強筋の配筋されていない試験体における曲げせん断実験においても、 $\alpha$  を考慮して（20.5）式により算定した短期許容せん断力は最大荷重時のせん断力に対して概ね1.5倍程度の安全率が確保できていること、上述のようにせん断補強筋を要求しながらその負担分を無視していること等を勘案して、短期においてもコンクリートの短期許容せん断応力度を2/3倍しなくてよいこととしました。

なお、損傷制御のための検討については、今後の改定時に検討することとします。